

500円の図書券と
県立自然科学館招待券が
当たる!

広報クイズ

毎月たくさんのご応募ありがとうございます。

県立自然科学館のご厚意により、招待券もプレゼントしちやいます。どしどし応募し

てください。

9月号のクイズの正解は、
①-C、②-A、③-Bでし
た。応募総数75通、全員が全
問正解でした。

【今月の問題】

①63年度一般会計決算の歳出。
最も割合が多かったのは?

- (ヒント=3ページ)
④民生費 ⑤総務費
⑥土木費

②戸石小の児童がつけた新校
舎の愛称は「〇〇戸石つ子校
舎」です。(ヒント=5ページ)

- (A)ピッカリ (B)ピカピカ
(C)ピッコロ
③高齢者自転車県大会に出場
した野内熊太郎さん。難しか
った実技試験は?
(ヒント=7ページ)
⑦ジグザグ走行 ⑧凸凹道
⑨バランス走行

【応募の方法】

はがきに答えの記号(例①
-A)、住所、氏名、年齢を
書いて送ってください。全問
正解者の中から抽選で5人に
500円の図書券を、3人に県
立自然科学館の招待券をペ
アで差し上げます。

〒あて先=〒950-12 白根市

当選おめでとう!

9月の
広報クイズ

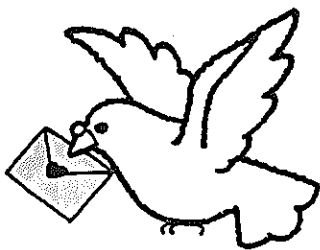
【図書券】

- ▶皆川友美さん(能登1・12歳)
 - ▶石田燕子さん(高井団地・10歳)
 - ▶伊藤孝明さん(水道町5・3歳)
 - ▶渡辺大三さん(七軒町・7歳)
 - ▶長井征治さん(南新町・47歳)
- 【県立自然科学館招待券】
- ▶洗川伸一さん(上大郷・12歳)
 - ▶高井純也さん(大字庄瀬・8歳)
 - ▶山田信義さん(清水・14歳)

9月21日(木)に市役所に来られた近藤弘
さんから抽選していただきました。



はがきで キャッチボール



広報しろね、毎回楽しく読ま
せていただいております。
白根を離れて遠く他府県に
居住されている人々に、ふるさ
との「広報しろね」を送付した
ら喜ばれるでしょうに、い
つも思っています。まだ実行
していません。
以前、小包の中に地元の日報
を入れたら、たいそう喜ばれま
した。
広報しろねも、歳暮や中元の
季節に、また毎月、別売りでも
送ってあげられればよいと思
うのです。

南新町 長井孝子

「ふ」
るさとを遠く離れていると
不思議なことに、それまで
見向きもしなかった行政の広報
紙が、やけに懐かし、また新
鮮に見えた経験があります。幼
なじみの顔がその広報紙の中
に見えたりすると、急に会いた
くなったり。
広報しろねもそんな皆さんの
お手伝いを、精いっぱいさせて
いただきます。
広報紙が必要な人はお気軽に
係までおいでください。無料で
差し上げます。電話などで連絡
があれば、地域生活センターに
も用意しておきます。

「ほ」
広報広聴係は市役所三階、企
画調整課にあります。
「こ」
りだくさんの広報しろね、
ありがとうございます。吉
崎さん宅に現れるタヌ公は隣
のベツトでしようか?白根市水
道町の町内に、物騒なというか。
夫婦と子ダヌキ七匹も、この
とですが、信じられなくらい
デース。ほほえましく、まち
の話題として珍しいものの好きの
見物人が、えさを持って列を成
すのではないのでしょうか。
親子元気に、悪さなどしない
でネ。
大通喜代子

市民談話室

原稿募集

11月1日号の原稿を募集します。皆さんが
日ごろ考えていることや身近な出来事など、
気軽に投稿してください。字数は400字から
500字程度とします。あて先は、〒950-12
白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整
課 広報広聴係(☎373-2111⑨333)です。



ソウル駅

「ソウル駅」
5年前に主人の仕事の関係で
ソウル市に三年間滞在してきま
した。新潟から飛行機でたった
二時間で行ける距離ですが、や
はり異国。不安を持つての出発
でした。
生活での最初の問題は、言葉
でした。まったく知らない韓国
語を赤ちゃん同様、「一、二、
三、」から覚え、初めて買い物
ができたときには、なんとも言
えずうれしく思いました。
次の問題は水でした。水道は
あるのですが、雑菌がひどく、
ミネラルウォーターを買っての
生活でした。水のたいせつさを



真柄妙子さん(下鷲ノ木二主婦・三十五歳)

ソウルでの思い出 懐かしい三年間の滞在

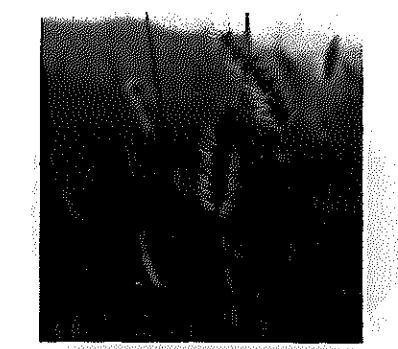
知らされたとともに、安心して
水が飲める国「日本」の良さを
実感したのでした。
ほのぼのとした経験もありま
した。幼児を連れてバスに乗る
と、必ず席を譲ってくれるので
す。また、大きい荷物を持って
いると、座っている人があたり
まえのように荷物を持ってくれ
るのです。今日の日本では見ら
れなくなった光景が自然に行わ
れていました。
その他、マイナス二十度での
生活、次男の出産、韓国人との
交流など、思い出の多い三年間
でした。



「上野行き」 中魚沼郡川西町で

それは昭和四十四年のこと
でした。私の前を通り過ぎるバス
の行き先が「上野行き」となっ
ていました。走り去るバスの後
ろの標示板には確かに「上野行
き」と書かれていました。その
とき私は、このバスに乗れば東
京の上野に行けると思ったので
す。
私は、その年の三月に、主人

「上野行き」のバスは走ってい
るでしょうね。豪雪の川西町は
変わったでしょうか。
訪ねる機会もないままに、月
日がたつてしまいました。あの
雪消えの心踊る春。人情に厚い
妻の里を懐かしく思い出して
います。
同一地名が成せる、このちよ
つとおかしな話も、時の流れを
越えてよみがえってきます。



市民文芸

川柳
人生の歩みに似てる富士登山
早川 英男
落ち鮎の流れに鮎は逆らわず
山岡 フミ
やんわりと大臣逃げの辞書を持つ
吉川 彰
心地よい主婦の座にいるLサイズ
米野 光雄
祝杯に浮く百歳の笑い皺
今井 七郎
翔んでいた母がギョクリ腰を痛む
織田 セツ
幸せな蟬は芭蕉の句碑に生き
後藤マサノ
曲車のきしみもあつた茨道
佐藤トミノ
鮎が取る鮎にまかせれる嫁の位置
佐藤 ヨキ
祈るのはあきらめ働くことにする
高橋祐四雄
遠花火見果てぬ青春のシルエツト
竹石 甚五
親のエゴたっぷり詰めているおしゃ
ま
田中 成子
長老に鮎をまかせた浮世舟
田村 恒夫

シバングに金鐘運ぶ偽装船
中村 尚治
ひたひたとくる晩年の設計図
西条 ムラ
俳句
鈴虫の鳴く小包を配達す
成沢 素明
道をしへ飛んで昔のままの道
猪股 南魚
霧の町一とかたまりに灯りぬ
公条 雪夫
立秋やチラシが誘ふ旅心
金田 イト
なつかしきものの一つやまこがし
和泉 伸子
からまりて樹上の鳥瓜の花
安沢 飛浪
灯を消して蚊やり火一つ残りけり
古川 綾
盆仏送りて妻はちよつと横
玉木 長吉
祝い酒意胆映ゆる詩は鳴り
渡辺 勤
短歌
悪しき予報外れてはしく思えども
中村 京
的中となる長雨の雨
早く浄土に逝きたしどあり
小出熊四郎
殺されて居るとも知らぬ正美ちゃん
出席とらる師なるのせつなき
小出よしの